

トップメッセージ

日頃より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

当社グループの2023年度第1四半期は、昨年後半から続く海外での景気減速の影響もあり、特に1~2月までは厳しい状況が継続しておりました。但し、事業部ごとの濃淡はありますが、3月以降は販売数量が持ち直してきており、海外の原料市況が緩んでいることもあいまって、業績は回復傾向にあります。

引き続き、昨年来の原料価格上昇分の製品価格への転嫁を進めるとともに、需要回復を適確に捉えて拡販に繋げることで、通期業績計画の達成を目指します。日用品分野での採用検討が進むセルロースナノファイバーや事業化フェーズに入ったバイオフィルムコントロール剤だけでなく、「曲がる太陽電池」関連で注目を浴びる銀ナノワイヤ、脱プラ紙化関連、機能性溶剤といった将来が楽しみな製品群の開発・拡販にも引き続き注力いたしておりますので、今後ともご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



代表取締役社長執行役員
菅 正道

第1四半期(1Q)業績

(億円)	22年度 実績	22年度 1Q実績	23年度 1Q実績	増減 (対1Q)	23年度 計画
売上高	324	75	74	-1.0%	352
営業利益	18.8	5.8	3.1	-46.4%	20.1
純利益	16.4	6.2	3.0	-50.9%	15.5
EBITDA(*)	33.1	8.8	6.9	-22.0%	39.3

* EBITDA = 営業利益 + 減価償却費

連結業績

主に製紙用薬品の拡販を進めると共に、これまでの原料価格の上昇に対応した製品価格への転嫁に努めましたが、国内インキ市場の縮小加速や昨年後半から続く海外での景気減速の影響による高付加価値製品の販売数量減が響き、売上高は前年同期並みも、大幅な減益となりました。

製紙用薬品事業

東南アジアでの拡販を進めると共に、価格転嫁に努めましたが、ベトナム工場の償却負担増もあり、前年同期比では減益となりました。但し、昨年4Q比では利益が回復しており、3月以降は、国内の販売が持ち直してきています。

樹脂事業

厳しい事業環境下、国内外共に苦戦を強いられ、1Qのセグメント利益は赤字となりました。中国の需要回復を適確に捉え拡販に繋げてまいります。

化成品事業

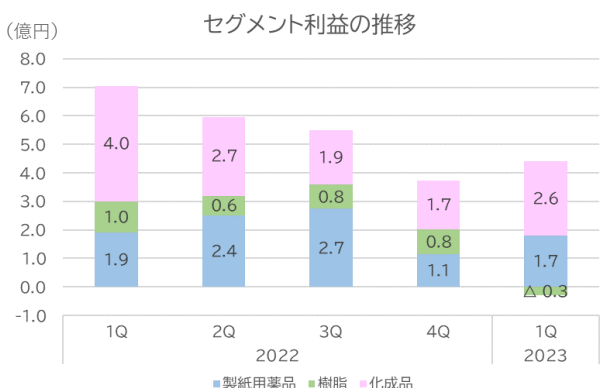
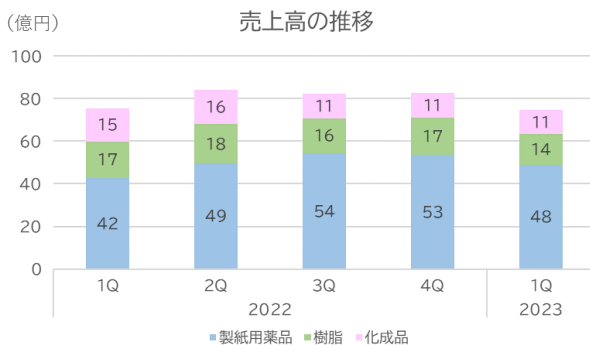
化成品事業は前年同期比では減益となりましたが、昨年4Q比では利益が回復しており、また、3月以降、中国での販売が持ち直してきています。今後、設備投資による減価償却費増の影響を一時的に受けませんが、下期以降の生産能力UPにつながる見込みです。

課題と今後の見通し

通期業績見通しは据え置き、売上高352億円、営業利益20.1億円の計画達成を目指します。利益の稼ぎ頭である化成品事業の収益力を一層高めつつ、製紙用薬品事業の更なる回復、樹脂事業の改革を進めてまいります。

配当に関しては、安定配当の方針のもと、昨年同様の水準を維持する予定です。

→2ページ目:製紙用薬品事業部 特集へ



特集：製紙用薬品事業部長インタビュー

強みは「幅広い製品ラインナップ」「技術営業力」

—改めて、当社製紙用薬品事業の歴史、強みについて教えてください。

製紙用薬品の製造販売は当社の祖業です。日本企業と外資系企業の合弁会社として設立された経緯もあり、湿潤紙力増強剤をはじめとした海外で開発された新しい製品を、日本においていち早く展開してきました。その際、品質を高めた製品として出すことにも妥協しませんでした。

現在の当社の強みを一言で申し上げるなら、「幅広いラインナップ」と「技術営業力」です。紙に強度やにじみにくさ・風合いなどの個性を出す機能性薬品と、抄紙時の操作性を高める薬品のどちらもラインナップしていますし、多様な製品群と製紙工程への深い理解を元に、営業と技術が一体となって課題解決をする「ソリューション営業」を行っています。



製紙用薬品事業部長
村田 満広

景気回復後に向け着実に準備中、成長地域への拡販を進める

—2Qがすでに始まっていますが、現在の状況はいかがでしょう。

国内では、コロナ禍が落ち着きインバウンド需要が回復してきたことから、段ボール原紙や衛生用紙などの回復を期待したいと思えます。価格転嫁は道半ばですが、顧客の理解を得ながら進めていきます。海外では、未だ市況が回復途上にある地域も少なくありませんが、コロナ禍からの回復をきっかけに既存顧客との関係強化、新規商権獲得のための商談を活発化し、市況が回復したタイミングで着実に業績を伸ばせるよう準備中です。

—今後の成長戦略をお教えてください。

紙・板紙市場の成長が期待できる東南アジアでは、紙力増強剤としてでんぶんを使っている製紙会社が多いのですが、排水とともに河川に流れると水質汚染を引き起こすリスクがあり、各国で規制が強まりつつあります。そのでんぶんを、当社のポリアクリルアミド系紙力増強剤に置換することで水質汚染のリスクを軽減できるため、置き換えを狙っていきたくと思っています。その他、紙の強度を出しつつ抄紙時の操作性も改善できる薬品も国内外でプロモートしており、好感触を得ています。

将来への種まきとして、新たな分野への挑戦も進行中

—そのほか、新たな取り組みがあれば教えてください。

最近、バイオフィームコントロール剤(BFC剤)へのお問い合わせをいただくことが多く、注目が高まっていると感じています。元は製紙会社のスライムトラブル対策のために研究員が着想したアイデアでしたが、この技術を公開したところ、「水」に関わる多くの幅広い業界から注目を集め、今年2月には医療機器用洗浄剤として製品化されました。脱プラ紙化関連製品の注目も集まっており、実機テストに進んでいる案件もあります。早期の採用に向けて引き続き取り組んでいきます。紙の国内市場が一部シュリンクする中、BFC剤や脱プラ紙化関連製品が新たな柱の一つになるよう育てていきたいと考えています。

製品化ニュース

医療機器洗浄剤用途で初採用！ 星光PMCのバイオフィームコントロール技術

バイオフィームとは、細菌が集合するとできる集合体で、いわゆる「ぬめり」を指します。バイオフィームは水を使うあらゆる場面で発生しますが、抗生物質や洗浄剤では簡単に除去できません。当社では、発生したバイオフィームを除去しやすくするだけでなく、細菌の生理機能に作用することでバイオフィームの発生を抑えるという画期的な技術を開発し(特許取得済)、「バイオフィームコントロール剤」(BFC剤)として展開しています。

医療機器用洗浄剤「BAKU」の共同開発

当社は、医療機器開発を手掛けるニューロシューティカルズ社と共同で、医療機器用洗浄剤であるバイオフィーム除去剤「BAKU」を開発しました。

バイオフィームを発生させず洗い流しやすい状態にすることで、医療機器の洗浄効果を高め、二次感染を引き起こすリスクを低減します。



家電など生活用品への展開も視野に

BFC剤は、医療機器だけでなく様々な分野への展開を模索しています。

例えば、家電分野では、空調内部の結露水により、空調内にバイオフィームが発生し、機器の故障や健康被害を引き起こす可能性があります。これまでの検討で、BFC剤をコーティングすることでバイオフィーム形成を抑制できることがわかっています。

この他、浴室やキッチン、排水溝などへの適用も期待しており、現在検討を進めています。